



「ふつうだからわからない」

少し前ですが、新型コロナウイルスの影響もあり、長い間会えなかった生徒とご家族にお会いする機会がありました。最初に出会ったときには想像ができなかったくらい背が高く、自分の考えや感じていたことを堂々と発言できる頼もしい少年に成長していました。この少年をHくんといいます。

Hくんは、小学校低学年のころに「ひらがながその形にならない」「ドリルをノートに写すときに、どこを書いているのかわからなくなる」「音読していても、丸暗記しているから、『ここから読んで』になるとできなくなる」といった、いわゆるLD(学習障害)のお子さんです。そのことがわかってから数年が経ち、私が算数の授業参観に行った際に、クラスでは「教科書の問題をノートに書いて解いて」という活動をしてい

ました。Hくんは周りの人と話してばかりで取り組む気配がありません。しばらく静観していたのですが、あまりにも取り組まないの、「やらないの?」と声をかけると「え、だって、真理先生、オレが写して書けないの知ってるじゃん」と一言。…あ、確かにそうだった。私は、持っていたルーブリックに問題を書き写し、「はい」と本人に手渡すとHくんはさっと取り組み、解答を悩み考えている他の子よりも先にすべてを正しく終わらせてしまったのです。「さすがだね」と声をかけつつ「そうだった、そうだった、この子は読み書きが難しいだけでできるんだ」と自省したことは、今でも鮮明に覚えています。

Hくんは「書く」のではなく、代替え手段としてタブレットで入力することで、クラスと同じ課題や宿題をこなしていくようになりました。はじめはプリントアウトして提出する、ということもありましたが、高学年の先生がICTにたけていたこともあり、タブレットで「提出」「返事・採点」ということが日常的になりました。

人・家庭・担任・学校が日常的に共有しながら、学校生活を送ってきたのですが、Hくんは中学進学と同時に転校することにになりました。「これまで培ってきたことがあるから大丈夫」と、誰もが思う中で、新生活が始まりました。先日の再会はその以来の機会でした。新しい学校では、日常的な学習の方法や宿題、テストなど、本人から「できないことの自己申告」と家庭から先生や学校への特性の周知など、Hくんへの周囲の理解を得ることによって「本人なりの方法で、やるべきことはやる」と工夫をしてくれていました。

再会の際にお母さまから「今はたまにいい先生、いい環境だからいいけど、これからのことを考えると、ちゃんとみんなにわかってもらうようにしないと…、できないことを理解してもらっているから、できているけど、この先みんなが同じように理解してくれるとは…」とお話がありました。全くの同感です。しばらくの間、あーでもない、こーでもないと話していたのですが、Hくん本人に「これからのために必要だから、学校や先生にどんな工夫してもらっているか具体的に教えて」と聞いてみました。

「え?」と困り顔のHくん。そのあとに出てきた言葉は、笑顔で「ふつうだからわからない」と。…確かに、とお母さまと私は顔を合わせ納得。「いや、でもそれじゃあ、この先の理解とか工夫につながついていかないかもしれないんだよ」と二人で本人を説得し、なんとか「ふつうの工夫」を覚えてもらうことができました。その話の中で、本人にとつてやりやすい方法が他の生徒にとつても良い方法で、そのやり方がゆるやかに広まっていったということもわかりました。学習の方法がいわゆる「既存の方法」と異なるだけで学習の自身は一緒なのです。

うれしい再会の中の何気ない会話でしたが、大きな意義のある「ふつうだからわからない」だったと気づかされました。私たち一人ひとりが、ほんの少しだけ「LD(学習障害)」や「代替え手段」ということを知っているだけで、人目を気にせず子どもが自分らしく学びをすすめていく環境をつくっていくことができるとは思いませんね。

**文化施設**  
**臨時休館のお知らせ**

歴史民俗資料館・旧近衛文麿別荘(市村記念館)・追分宿郷土館・堀辰雄文学記念館では、資料の保存を目的とした館内ガス燻蒸処理を実施するため、次の期間、臨時休館となります。

- 歴史民俗資料館・旧近衛文麿別荘(市村記念館)
  - 6月13日(月)から
  - 6月20日(月)まで
- 追分宿郷土館
  - 6月13日(月)から
  - 6月19日(日)まで
- 堀辰雄文学記念館
  - 6月13日(月)から
  - 6月15日(水)まで

**【問い合わせ】**  
 歴史民俗資料館 ☎42-6334  
 追分宿郷土館 ☎45-1466  
 堀辰雄文学記念館 ☎45-2050  
 生涯学習課 文化振興係 ☎45-8695